

ロジックモデルの深化(案)

平成 29 年 3 月 14 日

農 林 水 産 省

目 次

1. ロジックモデル（案）の概要	1
2. ロジックモデルの作成方法	2
3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法	3
4. 各種データによるロジックモデルの深化	6
5. ロジックモデルの簡素化	7
6. 詳細版ロジックモデル（案）	8
7. 簡略版ロジックモデル（案）	9

（参考）資料 3－2：ロジックモデルの検証事例集

1. ロジックモデル（案）の概要

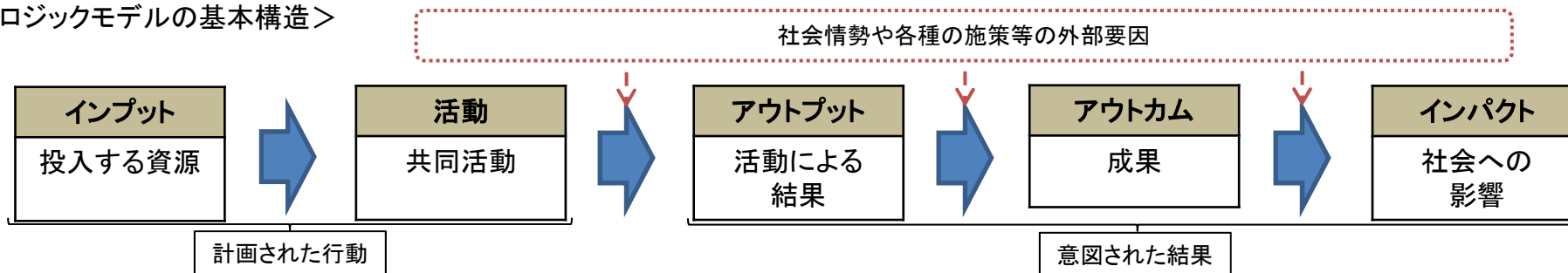
（1）目的

- 本交付金の中間評価に当たって、活動（手段）による効果（成果）を評価するため、活動がその目的を達成し、成果を上げるまでのプロセスを論理的に説明するためのロジックモデル（案）を整理。

（2）考え方

- インプット→活動→アウトプット→アウトカム→インパクトの5段階のプロセスとした。
- 「インプット」は、活動に必要な、人（農業者、非農業者）、地域資源（農用地、水路、農道、ため池）、本交付金とし、「活動」は3支払で支援する各活動とした。
- 「アウトプット」は活動による結果、「アウトカム」は活動による成果、「インパクト」は社会への影響として、各活動による効果を整理。
- 「インパクト」は、施策の理念の実現をゴールとし、『食料・農業・農村基本法』や『農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律』の基本理念を基に「農業の持続的な発展」、「多面的機能の発揮」、「農村の振興」の3つに区分した。
- 中間評価における6つの評価の視点は、各種のアウトカム（成果）に対するより包括的な概念として、ロジックモデル中に整理した。
- 本交付金のアウトプット・アウトカム・インパクトについては、社会情勢や各種の施策等の外部要因の影響を考慮する必要があるが、今回は本交付金に係る手段と成果の関係性を明示する目的であるため、本交付金の影響に絞って整理した。

<ロジックモデルの基本構造>



2. ロジックモデルの作成方法

(1) 取組事例によるロジックモデルの検証

- 本交付金の主な活動によるインパクトまでの考えられる項目を整理した上で、各種事例における取組の内容及び効果を用いて、ロジックモデルのインプットからインパクトに至るまでのプロセスを検証。その際、必要に応じて、アウトプット等の項目を適宜、追加する。

(2) 各種データによるロジックモデルの深化

- 統計データ、都道府県中間評価、アンケート調査等を用いて、ロジックモデルにおけるアウトプット、アウトカムの効果発現の確実性を評価する。

<使用データ>

- ① 統計データ（農林業センサスデータ等）（2005年、2010年、2015年）
- ② 都道府県中間評価（平成28年度）
- ③ 活動組織へのアンケート調査（平成27年度）
- ④ 活動組織による自己評価及び市町村評価の試行調査（平成28年度）
- ⑤ 市町村への実態調査（平成28年度）

<評価方法>

- ・ ①については、傾向スコアマッチング分析により、旧市区町村単位で本交付金の取組の有無によって比較し、有意な差が現れた項目について、効果の発現状況进行评估する。
- ・ ②については、都道府県中間評価書の各効果項目における評価結果を集計し、効果の発現状況进行评估する。
- ・ ③及び④については、調査対象の活動項目等と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況进行评估する。
- ・ ⑤については、市町村の取組理由等と、効果に係る回答をクロス集計し、アウトプット、アウトカムの関係項目の発現状況进行评估する。

3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

○ 各種の活動から生じているアウトプット・アウトカムを取組事例から整理。

(イメージ図)



3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

- 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。

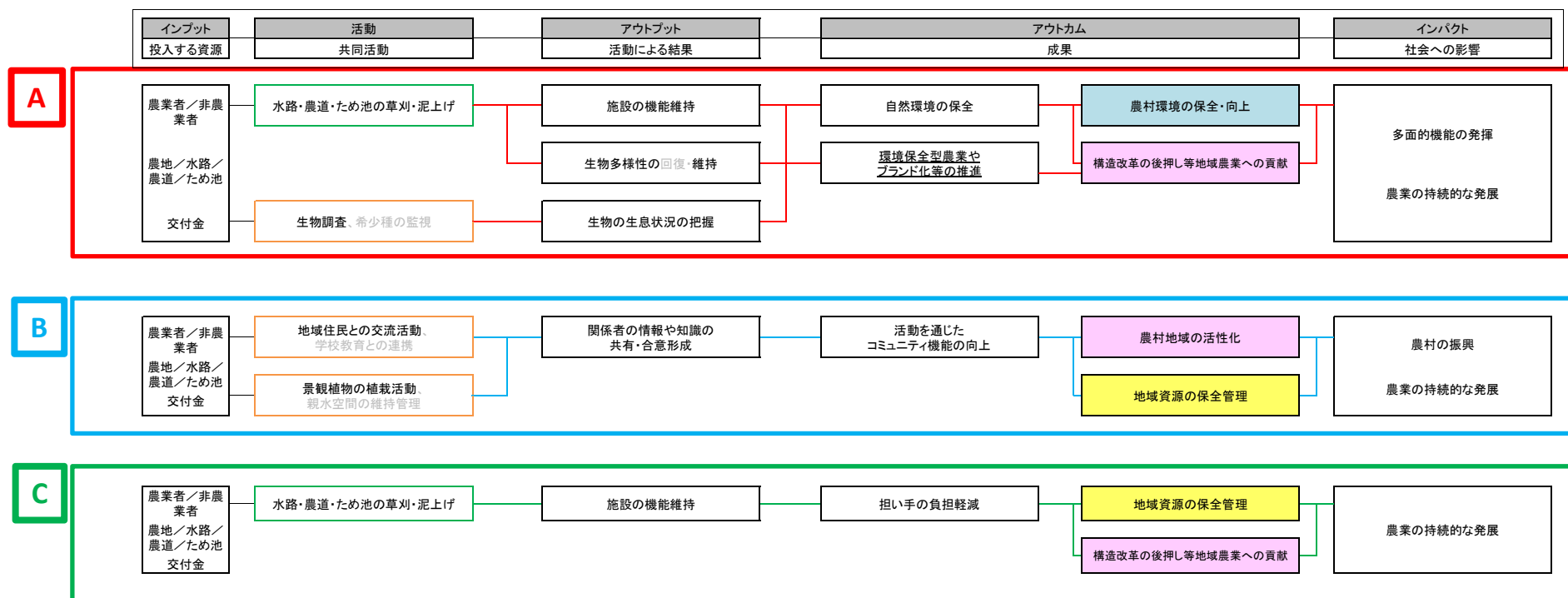
(イメージ図) ロジックモデル (分割版)

前ページで整理したアウトプット・アウトカムを結ぶ接続線

A

B

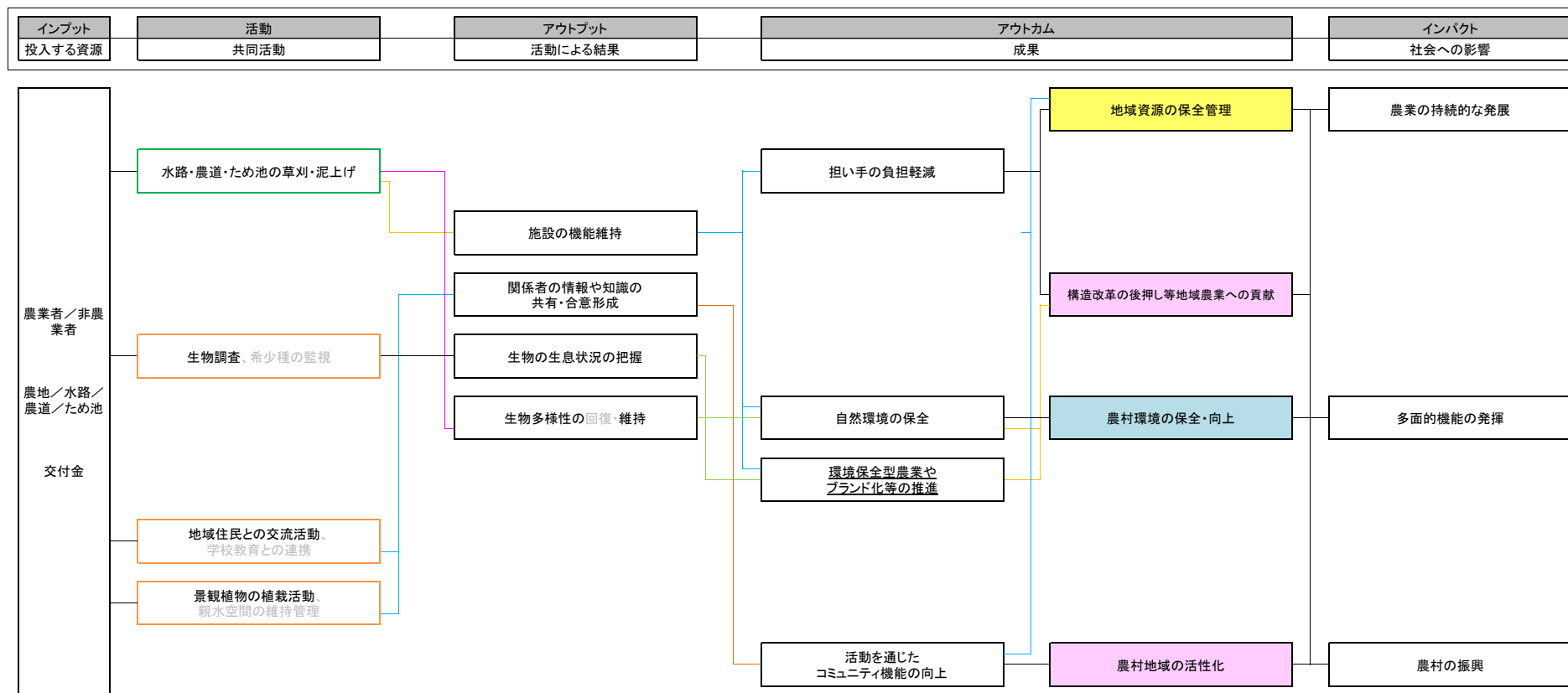
C



3. 取組事例によるロジックモデルの検証方法

○ 整理した内容を基に、各種の活動に関連するアウトプット・アウトカムを線で結ぶ。

(イメージ図) ロジックモデル (集約版)



4 . 各種データによるロジックモデルの深化

○ アウトプットやアウトカムの効果発現の確実性を以下のとおり評価し、線種を区分。

① アウトプット及びアウトカムは、上記『2. ロジックモデルの作成方法』により効果の発現状況进行评估し、枠線を設定。なお、統計データによる評価を最優先し、次いで都道府県中間評価の結果を優先するが、これらの指標がない場合は、アンケート調査等を総合的に評価して枠線を設定。

(※統計データによる評価は、効果が確実に現れていると判断し、a判定とした)

② 活動からアウトプットへのつながりは、直接的なアウトプットと間接的なアウトプットで区分し、接続線を設定。

③ アウトプットからアウトカムへのつながりは、アンケート調査等を総合的に評価し、接続線を設定。

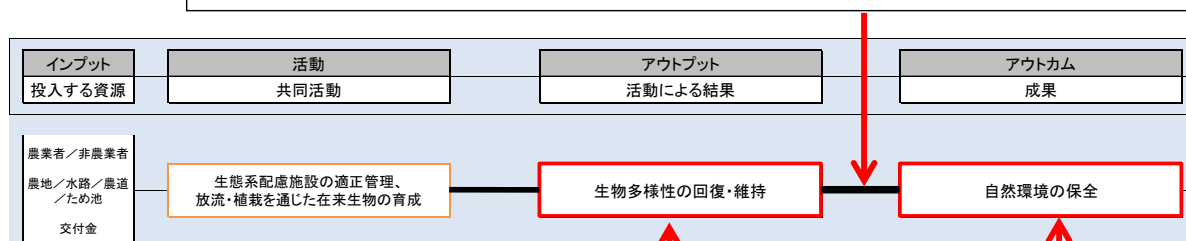
(イメージ図)

市町村実態調査結果 (平成28年度)

【問】 市町村において、交付金の活動による効果として「自然環境の保全が図られた」がどの程度発現していると思うか。

【結果】 「b. 大半の組織で効果が発現していると思われる」と回答した市町村が47.7%※と最も多かった。(177市町村/371市町村)

※市町村が交付金に取り組む理由として「希少生物の保護や外来種への対応」と回答した市町村について集計



活動組織へのアンケート調査結果 (平成27年度)

【問】 活動を通じて生息する在来生物の種類や生息数が増えたり、外来生物の生息範囲が減るなどの生態系保全の効果がでてきたと思うか。

【結果】 70.6%※ が「かなり出てきたと思う」及び「出てきたと思う」と回答 (149組織/211組織)

※生態系保全に関する活動を行っている活動組織について集計 (無回答及び「わからない」と回答した組織を除く。)

都道府県中間評価

【項目】 地域の生態系や水質が保全・向上

【結果】 「b. 大半の組織で効果が発現」と回答した都道府県が55%※と最も多かった。

※43都道府県の評価結果を集計

凡例

(1) 活動～アウトプット

枠線	農地維持支払	(緑色細枠)
	資源向上支払(共同活動)	(橙色細枠)
	資源向上支払(長寿命化)	(青色細枠)
接続線	直接的なアウトプット	——
	間接的なアウトプット	——

(2) アウトプット～アウトカム

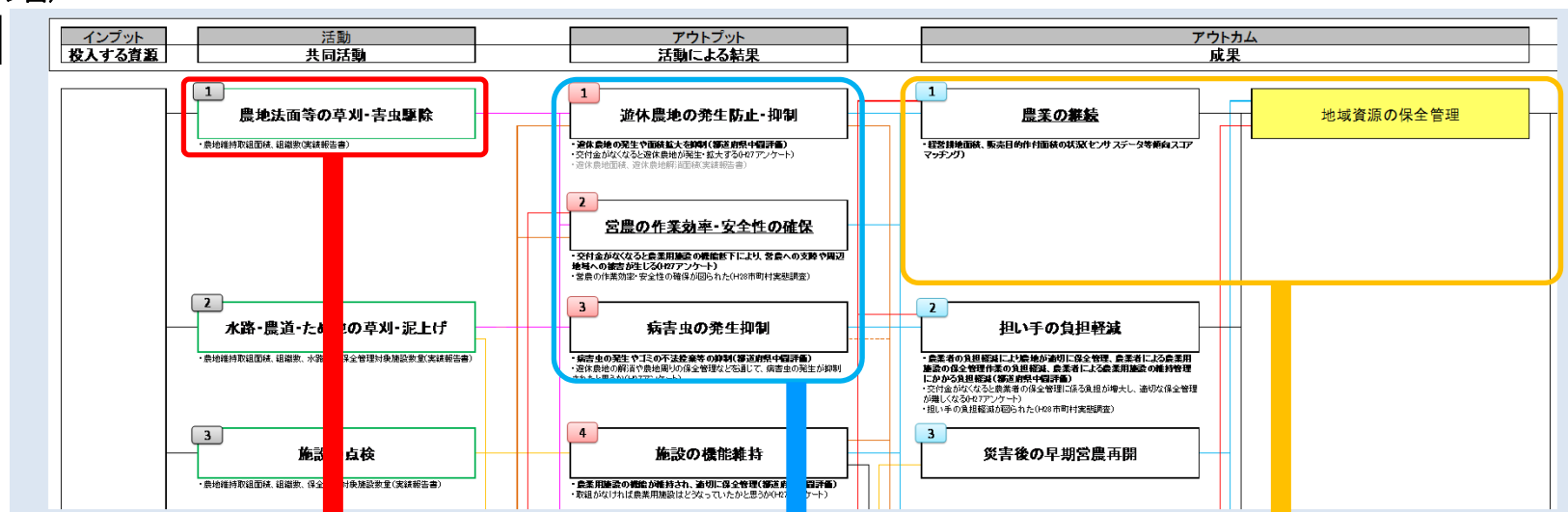
発現状況の判定の考え方		枠線	接続線
a : 取組組織の8割程度以上で効果が発現している、又は、発現が見込まれる		(赤色太枠)	——
b : 取組組織の5割程度以上8割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる		(赤色枠)	——
c : 取組組織の2割程度以上5割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる		(黒色枠)	——
d : 取組組織の2割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる		(黒色細枠)	——
データ不足		(灰色枠)	——

5. ロジックモデルの簡素化

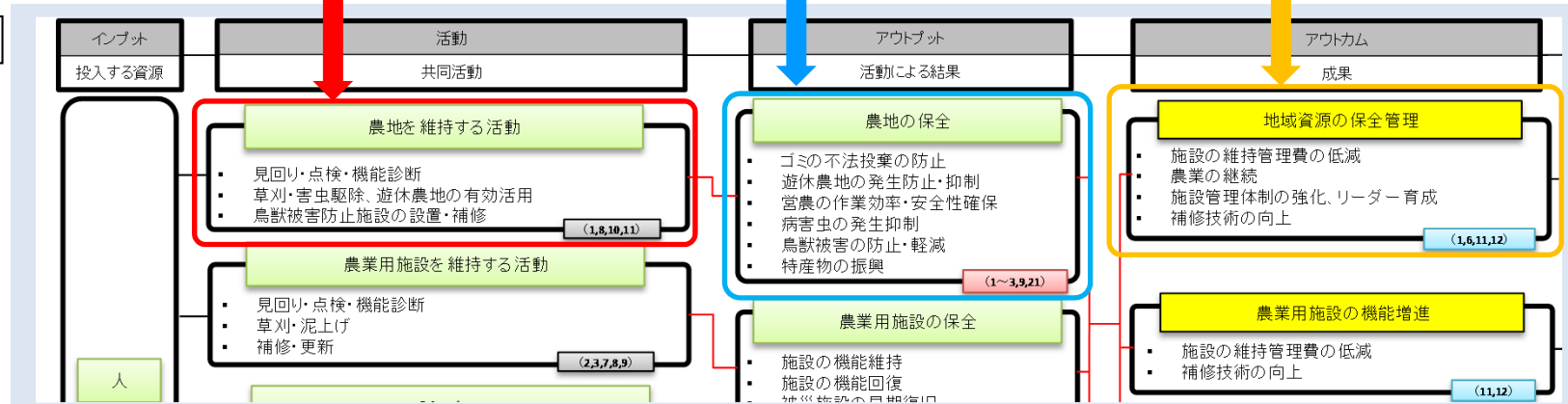
- 国民にも分かりやすくするため、深化させたロジックモデルを基に、活動、アウトプット及びアウトカムの各項目をグループ化し、ロジックモデルを簡素化した。
- ①活動は活動の目的別に、②アウトプットは結果の内容別に、③アウトカムは中間評価における6つの評価の視点毎にグループ化した。
- 接続線は、主要なつながりに絞って表した。

(イメージ図)

詳細版

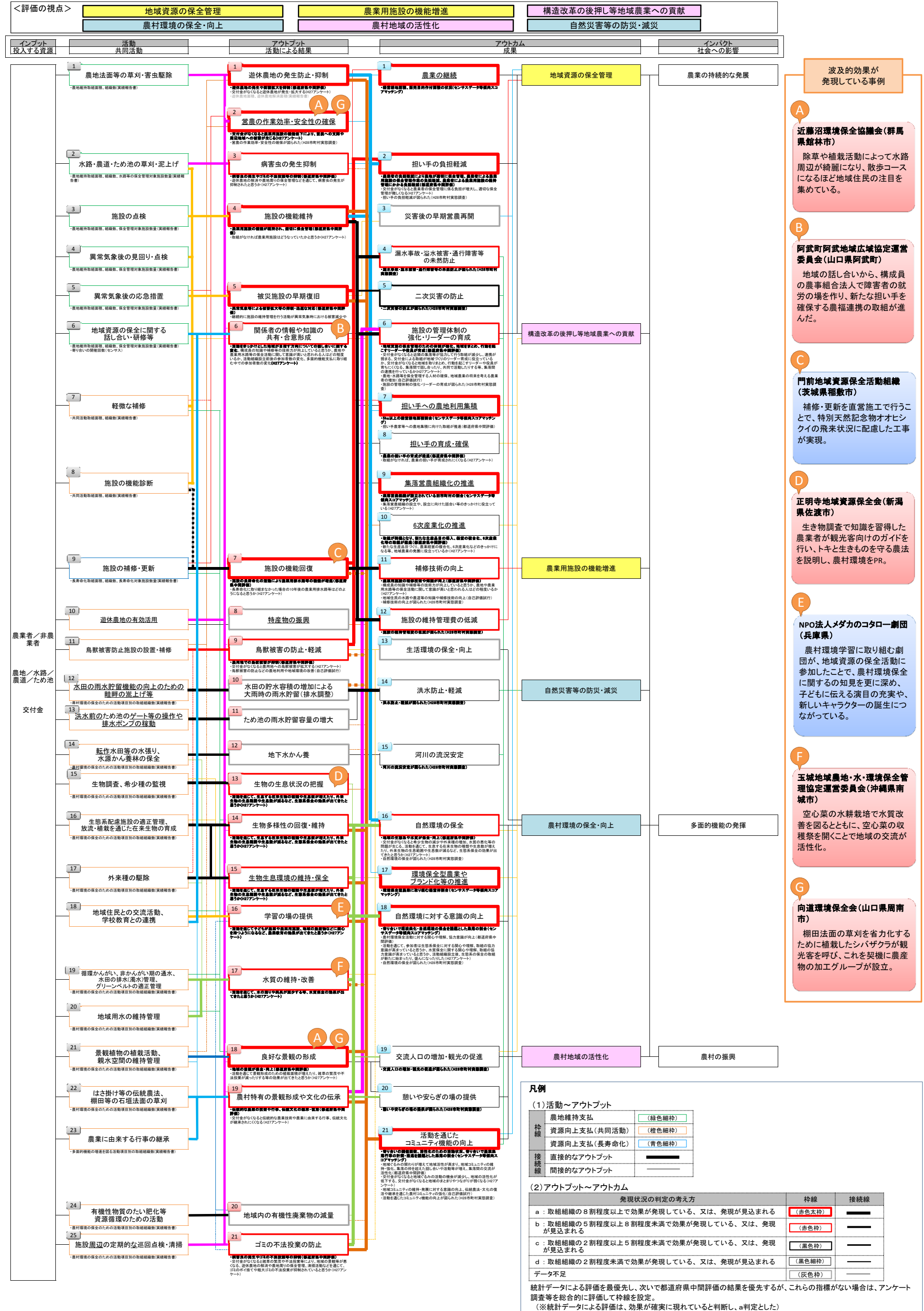


簡略版



6. 詳細版ロジックモデル(案)

全ての視点を踏まえたロジックモデル(案)



7. 簡略版ロジックモデル(案)

